心育てる「花育」

植物はどんな気持ちかな？

粕屋町 幼稚園などで実践

花を生けたり育てたりしながら、思いやりの心を育む「花育」が粕屋町の教育現場で広がっている。講師資格を取った女性グループと連携し、年間を通じて花育に取り組んでいる幼稚園もある。3月、卒園・卒業式を彩る花を題材にした花育の現場を訪ねた。

「お花さんは水の中で切ると、チューッとストローで吸うみたいに水を吸います」。粕屋町の町立中央幼稚園で11日にあった卒園式用のフラワーアレンジメントづくり。花育講師の松下泉さん(49)＝粕屋町＝がそう説明すると、園児たちは目をくりくりさせて聞き入った。

同幼稚園では3年前から松下さんと連携し、花の種を植えたり、押し花をつくったりしながら「花も生きている」ことを園児に伝えている。卒園式の生け花づくりでは、園児が一輪ずつ花を生け、最後に担任教諭が仕上げの葉などを飾る。今年で3回目。園児たちは全体のバランスを考えながら花を差していき、毎年美しく仕上がるという。

藤本愛子園長(60)は「作業しながら『お花さんは今どんな気持ちかな?』と問い掛けると、子どもたちは花の身になって考えます。それが人間関係で相手を思いやることにもつながると思う。花を慈しむ気持ちが芽生えた子どもは、いじめはしないと思います」と花育の効果に期待する。

◇ ◇

松下さんらが、花育に本格的に取り組み始めたのは約6年前。昨年夏には、花育を提唱、指導している北海道の生け花作家による研修を町内で受け、講師資格を取得した。

松下さんは、花育に出合うまではフラワーアレンジメントを教えていた。「形だけを教えることに意味があるのだろうか」と疑問を抱いていたところに、「花は切り花になっても生きており、愛情を持ち大切に扱うと長く生きられる」と教える花育を知り、共感。自分の子どもが通う仲原小でも昨年から活動を始め、2月には卒業謝恩会で使うアレンジメントを題材に花育教室を開いた。町の生涯学習センター「サンレイクかすや」でも毎月、子ども向け花育教室を開いている。

まだ校長や園長の個人的な理解と協力の上に成り立っているのが実情だが、その成果には現場の教師たちも一定の理解を示している。松下さんは「花育は『自由に生けること』を大切にしており、ルールに抵抗感のある不登校の子でも取り組みやすいと思う。思いやりを育む手法として広げていきたい」と話している。

（岩尾款）

上自分たちで生けた花を卒園式の会場に飾る町立中央幼稚園の園児たち
下仲原小で花育を指導する松下泉さん（中央）

良かね